

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本手外科学会
理事長 平田 仁

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

① 学術プロジェクト研究

日本手外科学会が主導し、学術研究プロジェクトを毎年行っている。年度ごとにテーマの公募を行い、学術研究プロジェクト委員会で審査し、理事会の承認を受けたのちに各々の研究を遂行している。2020年度のプロジェクトとして、“中枢性感作・破局的思考・うつ病が手外科疾患の治療に与える影響の解明”と“ディープラーニングによる手根管症候群の超音波画像の分類”が選出され、日本の同分野における研究をリードしている。過去には、“全国手外科医による特発性前・後骨間神経麻痺の診断・治療におけるエビデンスの確立のための多施設研究”、“手外科分野における炭酸ガス経皮吸収療法の臨床成績”、“デュピュイトラン拘縮患者を対象としたコラゲナーゼ注射治療と腱膜切除術後の上肢機能及び費用効果の比較研究”などの多施設共同研究を行い、臨床的エビデンスを集積している。

② ガイドラインの構築

1) 手同種移植ガイドライン (2002年8月作成)

日本手外科学会は、過去において手の同種移植に関する実験的研究を重ねてきた経緯がある。本学会は、本邦の学会において手の同種移植に関する科学的業績を最も多く有していることから、近い将来において本邦で行われる可能性のある手の同種移植の検討資料として、本ガイドラインを作成した。本学会の倫理委員会に所属するメンバーが同種移植部会を構成し作成した。

2) 橈骨遠位端骨折ガイドライン (2012年に初版、2017年に改訂第2版を発刊)

日本医学会の分科会である日本整形外科学会の事業の一環として、運動器疾患に関する各種のガイドライン策定および改訂が行われている。本ガイドラインは、日本手外科学会が会員の中から所属委員を選出し、策定および改訂作業を行った。

③ 患者立脚型機能評価質問表の作成

機能評価委員会が中心となり、国際的に広く使用される患者立脚型機能評価質問表の日本語版 (DASH JSSH バージョン、quickDASH JSSH バージョン、PRWE 日本語版、CTSI 日本語版、MHQ 日本語版) を作成し、その妥当性や信頼性を検証し国際雑誌に掲載している。

b. 当該領域における国際的な役割

1965年、日本は世界に先駆けて母指完全切断の再接着術に成功して以来、マイクロサージエリー分野で世界をリードしている。腕神経叢損傷や先天異常を有する患者の手の再建において、先進的な術式を開発してきた。手の先天異常に関して、国際手外科連合が先天異常分類を作成しているが、本分野で世界に貢献する研究を行っている本邦では、同分類を修飾したマニュアルを作成した。その他、末梢神経の基礎的研究や手関節のキネマティクスに関する研究で、広く世界に発信している。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

健康な手を持っていることへの感謝、あるいは手の不自由な人々を治療する手外科医の存在を知ってもらう「手（ハンド）の日」を8月10日として制定し、各地で市民フォーラムを行っている。その他の取り組みとして、第1回日本手外科学会オンラインフォーラムを配信する予定である。本フォーラムは、専門的に手の治療に取り組んでいる医師だけではなく各企業の研究者を含めた多彩な人材によるコンソーシアムを形成し、より偏りのないエビデンスの高い情報を提供することを目的として、今後社会に発信する計画を有している。

d. 学会運営上留意している点

全国に、学会指導医、専門医および相談医を設置している。日本手外科学会ホームページでは、会員や医療関係者以外に一般の皆様にもサイトを作成し、学会概要や代表的な手外科疾患の解説を行っている。その他の取り組みとして、若い手外科医の一層の育成をはかり、学術研究の発展に寄与することを目的として、有能な若手研究者に対して学会奨励賞「田島達也賞・津下健哉賞」を贈呈（毎年2名）している。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

本学会は、日本医学会連合に所属する日本整形外科学会、日本形成外科学会を基盤学会として活動している。両基盤学会の学術総会のスペシャルティデーでは、手外科に関するシンポジウムが開催されている。また、国民に対する良質な医療の提供、適正な医療レベルの維持を目指すために、疾患レジストリーシステムである Japanese Orthopaedic Association National Registry (JOANR)、National Clinical Database(以下 NCD)と連携した日本形成外科疾患登録システムに、各専門医研修施設で関連症例を連携登録している。同レジストリーに登録された医療情報を分析することにより、医療の質の向上と医療経済の最適化を目指している。